

## 社会福祉法人あおば福祉会

## おひさま保育園

## 2023年度（第26年度）事業計画

## はじめに

全国的に少子化がすすみ、豊中市でも0歳児が定員割れするという状況が生まれています。今後の動向を見ていく必要はありますが、合わせて、眼に見える形で地域貢献活動を周知・実施し、地域の人と関係を紡ぎながら入所につなげていきたいと思っています。また、コロナ禍から少しずつ日常を取り戻しつつある今、人が集う場として、保育園が地域の中で果たす役割はますます大きくなっていると感じています。おひさまこ保育園と連携し、それぞれの園の特色を生かしながら、地域ニーズに応えていくための取り組みを充実させていこうと考えています。園行事についても日常に戻しながら、子どもたちにとっての「意義」や「思い」を保護者と共有し、手を携えていきます。

## ◆大切にしたい保育内容・特徴

- (1) 身体づくりに向けた園外保育や体育活動を豊かに展開し、子どもたち一人ひとりが身体の主人公になる。
- (2) 異年齢交流、姉妹園交流、地域（世代間）交流を通して、人とのつながりをつくり出し、人と関わり合う力を育む。
- (3) 子どもの人権と発達の観点から、性教育についての理解を深め、子どもたちが「自分を大切に」することを軸に、「他者をも大切に」する気持ちを育む。

## 1 こどもの入園予定

おひさま保育園 定員：90名

クラス（対数）	定員	4月予定児童数	支援児	新入園児（予定）	継続児童数
0歳児（3：1）	9	9	0	9	0
1歳児（5：1）	12	12	0	3	9
2歳児（6：1）	15	15	1	5	10
3歳児（15：1）	18	20	0	5（連携）	15
4歳児（30：1）	18	18	0	0	18
5歳児（30：1）	18	20	0	0	20
合計	90	94	0	22	72

※一時保育事業実施

## 2 職員体制と職員の状況（新規採用・異動職員）

新規採用者 保育士 水迫 妃奈 2023年4月1日付（新卒者）

異動者 栄養士 定井 寿良 瀬川保育園より異動

<u>正規職員</u> ・・・・・・・・ 15名	園長 1 副主任 1 保育士 11 栄養士 2
<u>パート職員</u> ・・・・・・・・ 14名	
常勤パート職員・・・ 5名	保育士 3名・栄養士 1名・看護師 1名
短時間パート職員・・・ 9名	保育士 3名・保育補助 2名・調理補助 2名・警備 1名・清掃 1名
<u>嘱託医</u> ・・・・・・・・・・・・ 4名	なんぼこどもクリニック (難波 直樹小児科医師)
	カワムラ歯科診療所 (河村 忠成歯科医師)
	岡崎眼科 (岡崎 俊夫眼科医師)
	伊吹耳鼻科 (林 伊吹耳鼻科医師)

### 3 子どもの安全と健康・危機管理

#### (1) 職員一人ひとりの危機管理意識を高めていく

- ①「安全計画」を作成し、リスクマネジメント委員会を中心とした点検とふり返しを行う。
- ②消火器を更新し、設置場所や使用方法の確認をする。

#### (2) 日常に起こる事故やけがの検証を行う

- ①総合管理システム「うえぶさくら」を活用し、ヒヤリハットやインシデント・アクシデントの事案を収集し、分析と傾向対策を充実させていく。
- ②窒息・誤飲を防ぐための給食提供や行事のあり方を検討し、万が一の対応について、救命救急研修を通して学習する。

#### (3) 看護師と連携しながら健康教育・性教育に取り組む

- ①身体測定時は『身体の日』と位置づけ、自分の身体に関心を持ち、自分やお友達の身体も大切にすることを学ぶ機会にする。
- ②健康教育・性教育にかかわる教材を充実させ活用していく。

#### (4) 感染予防や衛生管理に努める

- ①専門家による『新型コロナと今後』について学習会を企画し、適切な感染予防対策に講じる。
- ②保護者のニーズを把握し、紙オムツの処理や乳児ロッカーの使用方法について検討していく。
- ③事務所の給湯環境の改修工事を行い、保健に係わる衛生管理環境を整備する。

### 4 保護者の願いに応え、子どもと共に育ちあう関係を大切に！

#### (1) 保護者の要求や願いに応え、共に育ちあう喜びが共有できる

- ①昨年度まとめた記念誌を活用し、園行事の「意義」や「思い」を保護者と共有する。
- ②『おひさまカーニバル』を春に開催し、早い時期に保護者同士が関係を紡ぐ機会をつくる。
- ③園の行事や懇談会は、おひさま・おひさまっこ両園合同で行い、保護者同士が繋がり合う機会をつくる。
- ④太鼓サークル『陽（サン）』の活動や北支部スポーツ大会を通して、保護者と職員が連携を図りながら、文化的な活動を支援していく。また、保護者が主体となって企画運営できるよう関わる。

⑤心理に携わる方にも参画していただき、障がいのある子を持つ保護者同士の子育てカフェを再開する。

## 5 地域に根ざし地域に必要とされる保育園をめざして（地域貢献事業）

### （1）地域に開かれた保育園をめざし、地域貢献事業に取り組む

- ①豊中市子育て・子育て応援アプリ『とよふぁみ by 母子モ』や掲示板を充実させ、園で行われている地域活動の発信と周知を図る。
- ②スマイルサポーターを中心に地域活動『あそぼう会』を計画（年6回）し、ニーズの把握や育児相談を行い、地域に開かれた保育園づくりを目指す。
- ③保育園横の公園掃除を保育に位置づけ、地域の美化に努めていく。

### （2）地域の教育機関・施設と連携する

- ①幼保こ小連絡協議会を中心に、近隣の施設交流をはじめ、教員との交流の場も持っていく。
- ②地域ネットワーク会議に参加し、地域ニーズの把握や他機関との連携を図る。
- ③豊中市立児童発達支援センターと連携しながら、発達に弱さを抱える子ども達や保護者を支援していく。
- ④豊中市こども相談課や中部保健センターと連携し、定期的な観察記録をしながら、モニタリング対象児の継続的な見守りを行う。

### （3）地域にとって大切な社会資源としての保育園を目指す

- ①「熊野田校区福祉連絡会」「夕日丘自治会（さつき会・子ども会）」に参画し、地域の福祉向上のための役割を果たしていく（配食サービス・介護予防体操・オレンジカフェ・自治会等）。
- ②子どもの居場所づくり「おひさまの家」事業を行い、学童保育後の生活保障のために支援を要する卒園児を受け入れる。また、在園児との交流の場としても位置付ける。

## 6 職員の資質向上をめざして

### （1）「実践」と「学習」が結びついた研修を行う

- ①場面記録やビデオ検討を通して、子ども理解と手立てをつくり出し、保育実践力を高めていく。
- ②クラス責の役割を明確にし、会議の定例化と学習の積み重ねを目指していく。
- ③子どもの身体の発達と体育的活動の援助の仕方を学び、働きかけができるようになる。
- ④総合管理システム「うゑぶさくら」の機能を活用し、指導計画等をクラウド管理し、情報共有のデジタル化をすすめていく。
- ④専門性の向上を図るために、総括会議に研究者にも参加していただき、会議内容を充実させていく。
- ⑤若手職員（経験年数1～3年）の面談を定期的に行い（年4回）、悩みや課題を共有できるようにする。

### （2）他園との交流を通して学び合う

- ①豊中地域と北支部5園の交換研修を行い、お互いに保育の質を高め合う。
- ②豊中地域で連携を図り、4・5歳を中心にした幼児会議と給食室会議を合同で行う。また、豊中地域会議を定期的に行い、お互いの実践交流を図りながら、保育計画の立案や子ども理解につなげる。
- ③姉妹園の看護師交流を実施し、『身体の日』の取り組みを自園にも還元できるようにする。

④熊野田校区連絡会や豊中子ども財団主催の研修に参加し、民間保育園との交流を図る。

### (3) 講師を招いて研修会を実施する

①「理論と実践を結び付けて」 講師：長瀬美子氏（大阪大谷大学）・年3回

②「場面記録から保育実践力を高める」 講師：杉山隆一氏・年3回

③「デジタル社会と子どもの発達」 講師：未定

### (4) 保育実践提案

○提案 第54回全国保育団体合同研究集会（福島）「働くことと子育て」 千田篤

## 7 中長期計画に関して

### (1) 人について

①豊中地域の管理職で連携を図り、地域支部体制を構築する。

②豊中地域に事務職を配置し、業務一本化に向けた体制の構築を目指す。

③2024年までに処遇改善加算の対象人数に向けたキャリアアップ研修4分野の取得を計画的にすすめていく。

### (2) 修繕について

①LED 全室取替工事 330万円

②事務所給湯環境改修工事 30万円

③2階フロア床暖房改修工事 750万円

### (3) 事業について

①ホームページを更新し、スマホ対応や採用に向けた機能・内容を充実させていく。

②スマイルサポーターを中心（在籍4名）に、地域の子育て世代を対象とした地域活動計画を具体化する。

また、周知のための広報にも力を入れ、地域との関係づくりに励む。